

吉見静子

(岐阜女大)

目的：官庁や大邸宅の洋館部に使用された家具については、すでに研究され、発表されているものもあるが、庶民の間にどのように受け入れられていったか、という視点で研究されたものについては、浅学の私は知らない。そこで、幕末から明治初期に、庶民の間に流布した錦絵に描かれた家具に着目し、その様式と種類別に収集し、庶民階層への家具の導入の1経過として考察した。なお、この研究は今年の大会に発表した研究に関連しており、住生活の変遷に関する研究の一環である。

方法：資料は「錦絵 幕末明治の歴史」1~11（講談社昭和52年）を用いた。幕末のペリー来航から明治天皇の大葬までの歴史上の出来事が劇的に描かれており、その世相がよく理解できる。今回は椅子に着目し、椅子を描がいている錦絵51枚を取出し、その場面と椅子の形態、意匠、使用状態などについて整理した（1861~1905）。特に椅子の形態は錦絵独特のデフォルメがされており、それをできる範囲で修正してスケッチし、西洋の家具と比較し、その意匠を明らかにした。

結果：その種類は寝椅子・小椅子・肘掛け椅子・スツール・学童用の長椅子などがあり、休息用のソファなどは見られない。意匠は平安時代の椅子に類似するもの、中国スタイル、和洋折衷、ゴシックスタイル、ロココスタイル、ネオクラシシズムスタイル、アンピールスタイル、アーリーアメリカンスタイルが見られる。なお、軍人が登場する場面にはアンピールスタイルの椅子が用いられており、椅子に類像似するものや和洋折衷のものの中には漆塗りの装飾的な椅子が見られる。